

協議会会議録

審議会等の名称	第2回 山口市中学校部活動地域移行推進協議会
開催日時	令和6年11月25日（月曜日） 18:30～20:20
開催場所	湯田地域交流センター 大・中会議室
公開・部分公開の区分	部分公開
出席者	大庭達敏委員、中谷重広委員、藤田幹委員、森國光孝氏（石田敬三委員代理）、桑原智恵委員、松田和寛委員、濱崎美幸委員、宮崎康生委員、佐伯弘明委員、河村靖彦委員、村瀬充俊委員、足立直之委員、川上修一委員、石津美香氏（宮崎知彦委員代理）、藤井英樹委員、岡村萬利雄委員（16名）（敬称略、順不同）
欠席者	なし
事務局	教育委員会事務局学校教育課副参事、同主幹、交流創造部次長、同政策管理室長補佐、部活動地域移行推進室長、同副参事、同主任主事、同部活動コーディネーター（8名）
議題	議題1 前回の協議を踏まえた山口市地域クラブの方向性 議題2 地域クラブに関する検討事項
内容	※要点筆記 1. 開会 (1) 会長挨拶 本日は月曜日、週初めの夜ということで、本当にお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。 前回の協議会で、本市が目指す部活動の地域移行に向けての様々な視点からいろいろな御意見をいただいたと思っています。会議でいただきました御意見、御助言を踏まえまして整理した資料を事前にお配りしておりますけど、次の段階として、今日はいろんな御提案をさせていただくわけですが、新たな方向性を整理しまして、とにかく子どもたちのために実りのある会議をしまして、目標である平成8年の9月からの移行に向けて進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 — 資料の確認 — (2) 会議の流れ 【事務局】 会議次第に従い、議題1、議題2について事務局から説明の後、「次第の3意見交換」で委員からの意見をいただくこと、並びに、本日の会議の情報公開について、第1回協議会同様、地域移行に向けたより具体的な内容についての意見交換を趣旨としており、次第3意見交換については個別情報等を含む可能性があることから非公開とし、冒頭から議事説明までを公開

とする、部分公開の取扱いとすること及び、会議録については要点筆記とし、発言者の実名を伏せた上で公開することを提案 →了承

(3) 議長の選任

【事務局】

山口市中学校部活動地域移行推進協議会設置要綱第6条の規定により、会長が議事進行する。

— 以降、会長により議事進行 —

2. 議事

(1) 前回の協議を踏まえた山口市地域クラブの方向性

【会長】

「前回の協議を踏まえた山口市地域クラブの方向性」について事務局の説明を求める。

【事務局】

資料1、参考資料1を用いて説明。

(2) 地域クラブに関する検討事項

【会長】

「地域クラブに関する検討事項」について事務局の説明を求める。

【事務局】

資料2、参考資料2を用いて説明。

— 報道・傍聴人、退出 —

3. 意見交換

— 以下、会長、委員、事務局の発言要点 —

【会長】

本協議会は、地域移行に関する事務局案に対して、委員の方々の多様な意見を基に市に持ち帰り、考え方、方向性を再検討し、次回の協議会で再度委員の意見を伺うもので、承認、決定する場ではないという趣旨の確認 →了承

【会長】

議題1「前回の協議を踏まえた山口地域クラブの方向性」について質問や意見を求める。

【A 委員】

「中学校1校区当たり1地域クラブの設置」の目的と推進室が考えるメリットとデメリットは何か。

【事務局】

各中学校単位での活動を急に变えることで生徒の混乱が起こるのを避けることが目的である(激変緩和)。アンケートでも同じ中学校の友だちと活動したいという生徒の希望が多かったことも理由の1つである。

これまでと同様の校区単位での活動のため、移動の負担を小さくできることがメリットである。デメリットは、小規模校ではチーム競技・種目の活動が難しく、個人競技が中心となり、できる種目が限られることが挙げられる。そういった状況に対しては、自校にない競技・種目を希望する生徒を近隣校で受け入れたいと考えている。

【B委員】

1校区1地域クラブとはどういう意味か。

【事務局】

例えば、A中ならA中学校区、B中ならB中学校区、その校区での地域クラブの組成ということになる。基本的には、今の学校の部活動から指導者が変わるだけのイメージに近い形になる。

【B委員】

1地区に2つ中学校があるところではどうなるのか。

【事務局】

1地域に2つ中学校があるところも、基本的に今ある中学校区ごとに取り組みたい。小規模校において、単独で維持ができない部活動については個別に調整する必要がある。

【B委員】

あくまで学校の部活動の延長という考え方なのか。その考え方は地域移行に添わないのではないか。前年度の協議会では地域スポーツ団体等へ移行するという意見があり、逆行している。それなら現状のままでよいのではないか。

【事務局】

そういった意見も、もっともではあるが、移動の負担等いろいろ考え、総合的に判断して1中学校区あたりに1つの地域クラブを作る判断となった。他市のケースでは、エリアを区切って、地域クラブを組成した場合に、移動の手段がなく参加を諦めた子どももいると聞いている。現状を大きく変えることによって生徒への負担が出るのを避けるため、単独校で活動を守ることができるうちは、維持していきたいと考えている。

【C委員】

資料の中で、「第1段階である移行初期においては」、「第2段階においては」とあるが、これは地域移行をした後も協議会を続け、逐次検討を続けていくということか。

【事務局】

お見込みのとおり。まず地域移行を軌道に乗せることを目指しているが、地域移行したから100パーセント軌道に乗るということではないと思うので、移行後も協議会を続けていきたいと考えている。定期的に、地域移行後も活動状況等を確認し、単独校を守りながらも一部の競技においては、複数の学校が一緒に活動することや新たな競技・種目を追加していくこと等、委員の意見を伺いながらより成熟した形にしたい。

なお、文化部についての議論は、次回協議会で御意見を頂戴したいと考えている。

【D委員】

小規模校の今後の生徒数を考えると、学校区ごとの地域クラブ活動ができるのか心配である。

方向性が似ている自治体として長門市の紹介があったが、山口市よりも移動が大変ではあるものの、スクールバスがあるので、別の考え方だという意識を私はもっている。山口市の場合は、全て自力あるいは保護者の車、保護者の連携やチームワーク等で支え、子どもたちやものを運ぶという、言い方が悪いが、そこをあてにしていると感じるが、移動についてどう考えているか。

【事務局】

移動の問題については、大きな課題と考えている。特に、単独校でなかった場合は切っても切り離せない問題である。子どもたちへのアンケートで、「どれぐらいの距離なら活動してもよいか」という質問に、自転車で移動できる4キロ～5、6キロの回答が多く、移動の負担を考えると単独校での組成の方向性を決めることとなった。

ただ、小規模校では、活動が単独校ではできない場合もあるので、大変申し訳ないが、他の学校区に移動することについては親御さんにとってかなりの負担になる。市として、全市での移動手段を確保した上で地域移行をすることは、現時点ではなかなか難しく、1校区に1地域クラブをつくるという方針となったところである。

【B委員】

移動の経費については、行政の方で負担してもらえないのか。

【事務局】

現時点では、移動の経費を行政が負担して移動手段を確保することは考えていない。

【E委員】

部活動の地域移行の経緯について、子どもたちの活動機会の確保が第1とは思いますが、教員の負担軽減も目的の1つではないのか。

【事務局】

この部活動の地域移行を契機として、教員の働き方改革、業務の負担の軽減をしていこうということも、結果としてそうなればいいということである。学校の教員に代わる地域のいろいろな方々の協力を得て指導してもらうことで、教員の負担軽減につながる事が望ましいが、第1目的は子どもたちの活動の環境を守ることである。

【E委員】

この資料で、運営本部、実施主体を山口市で設置、運営とあるが、教員の負担が減っても市職員の負担が増えるのではないか。

【事務局】

部活動にあたる場所は、青い枠の下にあるオレンジ色の地域クラブのところになり、その学校ごとの地域クラブ活動の運営は市が担い、指導の部分を地域の方をお願いすることになる。その17の地域クラブを束ねる本部は、一括して指導者報酬の支払いや会員登録のシステム管理等を効率化し、行政で行う。2階建てのような形がこの山口市の目指す地域移行の形である。

【会長】

議題2「地域クラブに関する検討事項 (1)地域クラブの活動日数」について質問や意見を求める。

【F 委員】

活動日数について、以前のアンケートで生徒と保護者を比べると、保護者の日数が多く、生徒の希望とかなり開きがあったと思う。指導者確保の話など総合的に考えると、今までの部活動が100だったとして無理に100に近づける必要はないと思う。生徒たちの望むボリュームさえあれば良いのではないか。地域移行の第一目的として部活動の教育的意義を継承すると方針でも言っているのだから、そこはぶれてはいけないと思う。

保護者からみれば、しっかり活動してほしいとか、遊んでほしくない等の理由からより多い日数を希望していると思うので、保護者の活動日数に対する考えに対しての整理も必要ではないか。

【事務局】

保護者の皆さんは、学校で部活動していると、お子さんが活動に対し一生懸命に取り組まれ、家に帰っても暇をもた余さない等の理由で、預けているうちは安心だと思っていられると思う。

これまで部活動では、学校の先生が指導しているので部活動にかかる人件費は発生していないが、今後、地域移行するにあたって一定の報酬を指導者に支払うことになる。受益者負担を基本として考えると、会費のウエイトの多くが指導者への報酬が占める。平日の指導者の確保の問題や、会費への影響などを総合的に検討し、平日2日、休日1日を提案した。

部活動の地域移行と並行し、生徒たちの居場所づくりとして、地域交流センターで行っている生涯学習をしている団体とともに活動することも考えている。今後、関係部局と連携しながら、生涯学習の分野も拡充していく必要性についても議論していきたい。

【D 委員】

地域クラブの移動は、母親に大きな負担がかかるのではないかと。働きながら地域クラブの移動をすることは母親にとって大変困るのではないかと。この移動を含め、先生だけでなく、地域全体、老若男女、みんなが少なくなった子どもたちを支えることが理想的である。

女性もフレックス制がもっと自由に取れる山口市であってほしい。これは、教育現場だけの問題ではなく、会社、公務員、まずは市役所や県庁の職員の働き方を改革していただくということが、子どもたちを支える上で大事なことになるのではないかと。

【事務局】

公務員である市の職員と学校の教員が、働き方を変えることによって、仕事を持つ傍ら、地域クラブの指導ができるように取組みたい。例えば、フレックスタイム制を設けるなど色々な方法で調整し、まずは公務員が中心となって取組むことで、他の分野、会社などに広げていきたいと考えている。

【会長】

本日の意見を踏まえ、次回兼職兼業について提案したい。

【F 委員】

山口市が目指しているのは、今の部活動をできるだけ変えず、指導者が教員から地域の人になり、場所もメンバーも全部同じという形を目指しているのだと思うが、移動の負担や保護者の負担は、このやり方が1番少ないと思う。

【A 委員】

活動日数について、例えば、指導者、生徒、保護者皆が活動を行いたいという場合、現行部活動のように平日4日、休日1日の活動が可能か。

参考資料2の、中学校の希望日数のアンケート結果で、運動部活動の5、6、7日の合計でいうと34パーセント、週4回以上の合計は、約6割の58パーセントの生徒が答えている。たくさんやりたい生徒と、あまりやりたくない生徒の平均が3.6日なので、これが週3日程度の活動日数の根拠としては違うのではないかと。

活動日数は、チームによって、平日4日、休日1日以内であれば異なってもよいと考える。

【会長】

指導者の確保状況にも関連するので、それも含めて事務局の説明を求める。

【事務局】

市の制度として確立するにあたって、現時点では各活動によって活動日数を変えるということとは考慮できてない。そういった活動を望み、会費が膨らんでもよい等の声が上がれば検討の余地はあるが、まずは一律の制度としてスタートしたい。

方法論として、地域クラブ活動としての日数にプラスアルファとして、生涯学習活動として実施するというやり方も考えられる。

まずは、今回の活動日数を基本とし、個別の事情があれば考慮する方向で調整したい。

【会長】

A 委員、県内の中学校で、活動日数を減らしているなど学校の動きはあるか。

【A 委員】

ないと思う。平日はほぼ4日、中体連の大会に出てくるところはそうではないか。

【会長】

教員の中では、地域移行に向けてある程度活動日数を減らしたいという意向があると聞いたが、実際はまだ行われていないということか。

【A 委員】

朝練をなくした中学校は増えている。

【会長】

活動日数自体を減らしている中学校はないか。

【A 委員】

それぞれのチームで活動日を減らしているかもしれないが、ほとんどの学校は、平日4日、休日1日の活動をしている。県内の中体連に登録のクラブチームは約150あり、おそらく150チームのほとんどは週4日、5日は活動している。

【会長】

その辺の県内の情報があれば提供を願う。

【G 委員】

おそらく、指導者は、大会やコンクールの前には活動量を増やしたいと思うが、令和8年の9月になるまでの1年4ヶ月を移行準備期間として実証事業を行い、子ども、保護者、指導者における、活動日などのそれぞれの課題を考える機会をつくり、並行して進める推進協議会でそれぞれの思いを吸い上げ、一番いい日数を検討し、その前後で流動的に活動できるような形を取ることができないか。

【会長】

実証事業も含め、今後のスケジュールを事務局から説明を求める。

【事務局】

来年度予算の議決次第であるが、ある程度市が目指す地域移行のモデルが整えば、よりそれに近い形でモデルケースとして、来年度後半あたりに実証事業を本格化したい。その中で課題も抽出しながら、意向についても聞くことができると思う。

また、指導者の確保に向けて、早めに活動に移したいと考えており、指導者の確保状況も、検討事項になってくる。例えば、平日4日できる指導者がたくさんいれば、流動的な活動日数も可能になるかもしれない。保護者には、活動日数に応じた会費について意向を聞く必要も起こる。状況により、ケースバイケースで考えていくということも必要になろうかと考える。伺った意見をもとにこれから検討していく。

【会長】

活動日数については、いろいろな意見が考えられる。

【H 委員】

市の制度としては、週3日程度を標準とし、可能な範囲で増減できるという柔軟なシステムがあれば、現場としてはありがたい。

【B 委員】

指導者を供給する側からすると、活動日数を固定すると、指導者は大変苦労すると思う。

【事務局】

活動日数を一律にというのは、行政思考であり大変申し訳ない。柔軟に色々なパターンを可能にするとすると、制度として複雑になってくるという面もある。現時点で、方向性をどちらにということとは言えないが、いただいた意見を踏まえて議論したい。

【会長】

事務局は、前述の理由と共に、全国的に指導者確保が難しい状況を踏まえ、たたき台として平日2日、休日1日の提案をした。

【I委員】

指導者の所に保護者がいないが、保護者は指導者バンクに入るのか。表の中にはないのは何か理由があるのか。

【事務局】

イメージ図の中では、保護者という言葉が具体的にないが、地域の中の1人ということで、保護者も指導者の中に含めて考えている。

平日は指導者の確保が大変難しいため、事務局としては、指導区分に段階を設け、見守りや指導補助の区分も設け、すそ野を広げたい。その候補には保護者の方も含めたいと思っている。

【会長】

今の回答は、資料2の2ページ目の(3)「地域クラブ活動の報酬及び指導区分について」、参考資料の表「各自治体の指導区分及び指導者報酬額」の指導と指導補助・みまもり等の所の内容になる。

【J委員】

指導者の確保が一番の課題なので、できるだけ早く取りかかってもらいたい。また、できるだけ早く人材バンクをつくり、中学校の部活動に関わってもらい、今行っている活動を上手く引き継ぎながら指導者を養成してほしい。

どうすれば指導者に手を挙げてもらえる方が増えるのかが1番の課題だと思う。そのためには、指導者の任用基準も早く示していく必要がある。いい指導者が見つかってほしいというのは、子どもたちや保護者の願いであるので、少しでも早く検討していただきたい。

【K委員】

資料1(2)で「移行が軌道に乗った第2段階においては、生徒の希望や指導者の有無等の事情を加味しながら、新設競技・種目等の設置の検討も含めた見直しを行う」とあるが、これはある程度軌道に乗るまで待たなければならないのか。

山口市の南部には吹奏楽部がないので、この地域に吹奏楽をつくるには第2段階にならないと着手できないことになる。当初の移行時に並行して進めることができないか。

個人の考えでは、南総合センターに集めての活動を希望する。そのあたりの検討を願う。

【会長】

次に「地域クラブの活動時間について」の提案、平日2時間程度、休日3時間程度について質問や意見を求める。

【C委員】

19時以降の指導ができると指導者は結構多いと考えるが、指導者によって18時から2時間程度ということも可能か。

【事務局】

子どもたちの活動であるため、夜遅くまで活動しない方が望ましいので日没までの活動を基本と考えている。19時以降でなければ、指導者確保が難しいという時には、生徒も含めて、19時以降に活動したいということが大半の意向であれば、学校開放による体育館やグラウンドの定期利用者と調整をするなど、個別の調整になる。

【L委員】

休日の部活動の開始は定時に始められるのでよいが、平日は委員会活動や生徒指導などがあったりして、日によって開始時間が異なる。中間テスト、期末テスト、そして夏休み、冬休み、春休みもある。指導者の立場からすると定時に開始できるようにしてもらいたい。

学校終了から部活動開始までの引き継ぎの部分の時間帯というのは非常に不安定なので、その辺りがクリアになるとよい。

【事務局】

部活動の地域移行において、学校との調整は絶対に欠かせないもので、学校の放課から地域クラブ活動に移る時間帯をある程度定時で定めることは大事だと考えている。学校ごとの取組になるかもしれないが、しっかり学校と調整していけるように、そういった所も検討していきたい。

【M委員】

学校との連絡調整のところで、指導者と学校とをつなぐのは誰か。

【事務局】

現時点で決定していないが、各地域クラブにコーディネーターのような人材が必要であるとする。今後どういう形で配置していくかについても検討していく必要がある。

【M委員】

生徒間トラブルやけが等があった場合、学校とどう連携し誰が対応するのか。指導者が全て対応するのか。

【事務局】

地域クラブ活動における生徒間のトラブル等は、学校管理下ではなくなるが、学校との情報共有をどう図るかということが1番大事になる。生徒間のトラブルの解決には、学校の先生の持っているノウハウも必要になるので、教職員が兼職兼業として携わることも期待したい。今回の協議で「学校と地域クラブの連携のあり方」を予定しており、いろいろな意見をいただきどうあるべきか検討していきたい。

【会長】

資料2(3)の「地域クラブ活動の報酬と指導者区分について」、事務局が想定できていないこともあるので、現場の意見や質問を積極的に求める。

【C委員】

資料の報酬額1,500円よりも高額のところがあるか。

【事務局】

全国的には、高いところはある。指導者報酬額が会費に直結する部分であり、都市部と地方部では考え方が違う等、総合的に考えて検討していきたい。

【C委員】

報酬が高額になれば、指導者も集まりやすいのではないかと。会費に直結することではあるが、そこを市や国がしっかり支援する形になればスムーズに進む。

【会長】

全部を会費で賄うことはできない。会費と市の補助との割合について実証事業の例はないか。

【事務局】

割合を示す資料はないが、行政が主体で取組む地域クラブでは市の相当な財政負担はある。

【会長】

部活動では、会費はそれほど高額ではないが、地域クラブ活動では会費に加えて市の負担がなければ運営できない。

【会長】

指導者区分の指導と指導補助についての追加説明を事務局に求める。

【事務局】

平日の指導者の確保が相当大きな課題というのは十分認識している。実際に指導はできなくても活動を見守れる方は地域にも一定数いるのではないかと考え、指導者区分を指導者と指導補助・けがや事故などの対応をする方の2区分設けていきたいと考えている。

地域の保護者や高齢者の方もターゲットとしながら役割を担ってもらえる仕組みにできたらと考えている。

【会長】

指導者が十分いれば週5を目指したいがなかなか難しい。指導者が活動しやすいように19時以降にすると子どもたちが遅くまで活動しなくてはならない中、放課後から19時までの間で、少しでも指導者を増やしたいために指導者と指導補助・みまもりという区分を設ける事務局案となった。

【M委員】

指導者募集の条件の中で、生徒数がどのくらいなら指導者を何人にするという配置基準を考えているか。

【事務局】

大規模校で、60人、70人と部員数がある部で、それを1人が指導するということは難しいので、複数人の対応が必要になると考える。十分に検討し、ある程度のルールについても検討したい。

【M委員】

指導者の募集要項の中に、先ほどの活動日数、活動時間、報酬等の条件に加えて、指導者数についても反映されるということか。

どのぐらいの人数をどのぐらいの指導者で活動する等、指導の諸条件を明記することで指導を希望する人が手を上げやすくなり、安心安全な活動にも繋がることになる。

【事務局】

その辺については、今後検討していきたい。

【A委員】

今回、指導と指導補助・みまもり等と分かれているが、指導資格があるかないかで2つの区分に分けるとよい。有資格者にとっては、資格取得費用の他にその後も何年かごとに資格更新費用が必要になる。更新費用を市が支払うことは難しいと思うので、指導区分による報酬の差を設ければ、差額が更新費用の一部に充てれるのではないかな。

【事務局】

指導資格の有無によって指導区分を分けることについても検討はしてみたいが、中体連への大会参加要件は、全ての競技に資格が必要ではないため、どのように整理するかということはいっしょに考える必要がある。今の意見も参考にしながらしっかり検討していきたい。指導者区分についても、改めて検討する。

【D委員】

運営イメージのオレンジ色の地域クラブの中に、協力的なボランティア、報酬と関係なくボランティアをしたいという市民の姿、保護者とか地域みんなの支えなど、地域の人々の気持ちが見えるような形を表現できないか。みんなが協力し支えているような図になるとよいと思う。

何かよい方法はないかな。

【C委員】

ネット上では、PTAの不要論も出ているが、県の教育委員会の会議では、よくPTAの言葉を耳にする。学校と地域、保護者の連携が必要不可欠で、地域や保護者の協力がなくては子どもたちの学びは成功しないので、あえてPTAと書いてもよいかもしれない。県の教育委員が提示した例で、木の絵を使いそれに実がなるような表現をしているものがあつた。そういったみんなに受け入れられやすい、可愛らしい形に変えてみたら印象やイメージも変化するのではないかな。

【事務局】

いろいろなイメージが伝わりやすい方向で、知恵を絞っていきたい。

【会長】

	資料2(4)の「地域クラブ活動の指導者確保に向けた方向性について」質問、意見を求める。 【C委員】 資料2の表「対象」の学生、企業関係者のところの「考えられる取組案」で山口銀行があるのは、何か意味があるか。 【事務局】 記載をしている団体でやまぐち地域共創プラットフォームという組織をつくっており、その中に山口銀行がある。このプラットフォームのテーマの1つが部活動の地域移行で、ワークライフバランスの取組や地域移行について協力を受け、意見をもらっている。 【会長】 ニュース等では、よくSPARCという表現でやまぐち地域共創プラットフォームを紹介しているが、山口市にある三大学と商工会議所と山口銀行が協力して課題解決をしていくもので、その検討の中に、部活動の地域移行がある。 【B委員】 コンクールや試合にはどんな名称で出るのか。 【事務局】 名称は未定である。他市においては、いろいろな名称を使っているが、山口市については、これから考えていきたい。 【B委員】 参考資料1の一番下、NGの下に、ただし、自身の通う学校に希望する……とあるが、もし1人でも、2人でも他の校区から入ってきたら、名称も相当難しくなるのではないか。 次の段階になるが、新しく地域クラブを作ろうという時に、中体連の加盟競技種目あるいは中学校のカリキュラムに入っているスポーツ以外を、入れてもらえるか、入れてもらえないか。 【事務局】 基本的には今ある部活動を、地域クラブに移行するということであるが、将来的に、この移行が落ち着いた第2段階で、新しいスポーツや新しい文化活動についての新たな需要、ニーズにも応えていきたいと考えている。 【B委員】 中体連加盟種目や中学校のカリキュラムとは関係なく新しい競技を追加することができるということか。 【事務局】
--	--

お見込みのとおり。大会があるなしに関係なく新しい種目として設置することが考えられる。

【A委員】

日本スポーツ協会と日本郵政が地域スポーツ支援のためのオフィシャルパートナー契約を結び、今後、郵政グループの社員が全国で40万人資格を取得することになる。そういった方面にも働きかけて指導者を集める方法もあることで情報提供する。

【会長】

次回2月には、市の職員、教員の兼職兼業の取り扱いについて整理して提案したいと考えている。

【G委員】

実証事業について、どの程度考えているかについて知りたい。具体的な学校名までは難しいということであれば、どこの地区で、どんな学校規模かが分かるとよい。

【事務局】

来年度の実証事業については、今、予算要求の段階で具体的には言えないが、位置付けとしては、イメージ図で示した形の運営を実際の中学校校区で行いたい。その中で、課題を検証・整理し、令和8年9月の地域移行を開始できるようにしていきたいと考えている。実証事業については、予算の議決を経た段階で改めて提示したい。

【D委員】

今回提案された地域クラブ活動の活動日数が少ないので、●●中のような運動部の部活動の活動日と別の日に活動する合唱団であれば、兼部が十分成立し、運動部に入っている生徒が合唱団でも活動することができるようになる。曜日を変えて活動することで、兼部をするということ想定しているのか。

【事務局】

兼部については、子どもたちの活動の選択肢が広がり平日2日とした理由の1つとしてある。その辺りの説明が漏れていたが、想定をしていたことである。例えば、2つの活動を希望する生徒にとって、月・木と火・金で違う活動が可能となる。

平日の体育館やグラウンドの使用は、大規模校では特に飽和状態で、曜日によって体育館での練習とグラウンドの練習と割当られており、例えばバレーボールや卓球が外で活動する状況も起こっている。ところが、活動日を平日2日によって、どの競技も体育館で活動することが可能となり、そういった活動場所の共有ができるという面からも、平日2日の活動を提案している。

【K委員】

人材の確保について、各学校の学校運営協議会にはコーディネーターが必ずおり、各学校区それぞれの地域のことやいろいろな人をよく知っているので、学校運営協議会が関わって人材を見つけていけば、ある程度人材が確保できるのではないかと。

【E委員】

スポーツ少年団の入団枠は、幼稚園児から高校3年生までで、2、3年前ぐらいから枠が広がっている。昔は小学生だけだったが、中学校でも引き続き在籍できるという形になった。私は水泳だが、中学校になって別の部活動をしながら引き続き活動する子どもも数人いる。こういったことも活用できないかなと考えている。

【会長】

その他、質問や意見等求める。→ 意見等なし。

4. その他

【会長】

2「今後の検討事項(予定)」について、事務局から説明を求める。

【事務局】

資料2を用いて、2今後の検討事項(予定)について説明。

【会長】

前回の協議会では、5月ぐらいにガイドラインの作成と考えていたが、指導者の募集をできるだけ早く始める必要があり、先程の説明のとおり、ガイドラインについては中間案と表現した。その辺、了承をいただきたい。

指導者募集を先行して行うため、今回、活動日数、活動時間、指導者報酬というところを事務局案として提示した。次回、その辺をしっかり詰めていきたいと考えている。

—議事終了—

—進行を事務局へ—

3 その他

【事務局】

次回以降の協議会予定について説明。

第3回を2月頃に開催したい。

—会議終了—

資料	(資 料 1) 前回の協議を踏まえた山口市地域クラブの方向性 (資 料 2) 地域クラブに関する検討事項 (参考資料 1) 地域クラブの設置及び運営イメージ (参考資料 2) 地域クラブ活動の活動日数について
問い合わせ先	交流創造部 部活動地域移行推進室 TEL 083-934-2672